

平成21年度生産性限界打破事業交付決定地区一覧

	事業種類	都道府県名 市町村名	事業実施主体名	対象作物・施設名	取組概要	投資効率 (注)	予定事業費 (千円)		交付決定年月日	備考
							うち国費 (千円)	うち国費 (千円)		
1	生産性限界打破事業モデル実践事業	北海道 美唄市	美唄市水稻直播研究会	水稻、小麦 実証ほ場設置	水稻においては、汎用可能な乾田直播機を導入し、農機具費の低減を図るとともに、漏水等のほ場条件によって直播栽培が導入されていないかったほ場において、新たに湛水直播栽培を導入し、労働費の低減を図る。 また、麦においては、収量性の高い麦の新品種「きたほなみ」を導入し、麦栽培の収益性の改善を目指すとともに、麦栽培に当たっては、連作による病害の発生等を回避し、適切な大豆・麦の輪作体系を構築するため、新たに不耕起間作小麦栽培を導入し、品質及び収量の向上を図る。		1,470	1,400	平成21年5月22日	推進事業
2	生産性限界打破事業モデル実践事業	北海道 芽室町	J A めむろ馬鈴薯作業受託組合	馬鈴しょ 実証ほ場設置、検討会開催	馬鈴しょについては、ソイルコンディショニング栽培技術を導入し、収穫作業で問題となる土塊等夾雑物を春作業時に予め除去することによって、夾雑物による打撲の回避や収穫作業の省力化を図るとともに、高品質化、規模拡大を可能とする栽培システムを構築する。 さらに、慣行栽培との比較実証ほを設置し、萌芽への影響等の生育状況調査、労働時間・規格内収量等の比較調査を実施することにより、コスト削減効果を検証する。また、実証結果を生産者に提示することにより、ソイルコンディショニング栽培技術の効果に対する積極的な普及活動を併せて実施する。		240	240	平成21年5月22日	推進事業
3	生産性限界打破事業モデル実践事業	北海道 新得町	新得町種子馬鈴薯生産組合	馬鈴しょ 推進会議の開催等	馬鈴しょについては、ソイルコンディショニング栽培技術を導入し、収穫作業で問題となる土塊等夾雑物を春作業時に予め除去することによって、夾雑物による打撲の回避や収穫作業の省力化を図るとともに、高品質化、規模拡大を可能とする栽培システムを構築する。 は、導入機械を本格的に運用し、労働時間の実測による慣行栽培との比較を行うとともに、ソイルコンディショニング栽培技術の培土法（播種と同時に培土し、中耕・培土を省略）が生育及び収量に与える影響を検証し、コスト削減効果を把握する。		84	84	平成21年5月22日	推進事業
4	生産性限界打破事業モデル実践事業	北海道 斜里町	斜里町農業協同組合	馬鈴しょ、小麦 実証ほ場設置、リモートセンシング写真撮影・分析	馬鈴しょについては、ソイルコンディショニング栽培技術を導入し、収穫作業で問題となる土塊等夾雑物を春作業時に予め除去することによって、夾雑物による打撲の回避や収穫作業の省力化を図り、高品質化、規模拡大や適正輪作等を可能とする栽培システムを構築する。 また、小麦については、乗用刈倒し機・天日乾燥を組み合わせた両害リスク低減技術を導入し、生産コストを低減させる栽培システムを構築する。		2,314	2,203	平成21年5月22日	推進事業
5	生産性限界打破事業モデル実践事業	北海道 美幌町	美幌ポテト倶楽部	ばれいしょ、てん菜 栽培講習会、土壌分析	ばれいしょの種子生産については、ソイルコンディショニング栽培技術を導入することにより、収穫作業で問題となる土塊等夾雑物を春作業時に予め機械で除去し、収穫物の打撲の回避とともに労働時間の削減を図り、高品質な種子の提供及び規模拡大を可能とする栽培体系を構築する。 また、てん菜については、直播栽培技術の導入によって、育苗作業を省略し、他作物との作業競合の回避を可能とする栽培体系を構築する。		530	504	平成21年5月22日	推進事業
6	生産性限界打破事業モデル実践事業	北海道 鹿追町	鹿追町農業協同組合	野菜（キャベツ） 輸送容器調査、調査実証試験の実施等	キャベツ栽培は、生産に係る労働時間の約半分を占める収穫・調製作業については有効な技術の導入が進んでいない状況にあり、手作業による重労働を強いられている。このような課題を解決するため、全自動キャベツ収穫機を核とした機械化一貫体系の確立が、加工・業務用キャベツ生産の省力・低コスト化に有効であると判断されることから、収穫機適正品種及び栽培体系確立のための実証試験等を実施し、低コストかつ安定的に供給するシステムの構築に取り組む。		9,809	9,808	平成21年5月22日	推進事業

	事業種類	都道府県名 市町村名	事業実施主体名	対象作物・施設名	取組概要	投資効率 (注)	予定事業費 (千円)	うち国費 (千円)	交付決定年月日	備考
7	生産性限界打破事業モデル実践事業	青森県 五所川原市	ごしょがわらフロンティア農業実践組合	水稻、小麦 農業機械のリース、協議会の開催等	水稻においては、乾田直播栽培技術の導入により、育苗作業等に係るコスト削減を図ることとし、汎用型の不耕起播種機及びけん引する高性能トラクター、レーザー均平機を導入（リース契約）し、労働時間等の大幅な削減により生産コストの削減を図るとともに、移植栽培との単収格差縮小に努める。 また、小麦においても、不耕起播種機を導入し、耕起作業等の省力化を通じて労働費等の削減を図るとともに、湿害対策の実施により単収の向上を図ることとし、サブソイラー（リース契約）による湿害回避を行い発芽率・生産性の向上を図る。 さらに、不耕起播種機をホールクロップサイレージの作付にも取り組むことで、機械の効率利用が図られ機械費の削減を図る。		4,504	4,504	平成21年4月17日	推進事業
8	生産性限界打破事業モデル実践事業	岩手県 平泉町	農事組合法人 アグリ平泉	小麦・大豆 栽培マニュアル作成	小麦の新品種「ゆきちから」の導入と大豆300A技術の一つである「小畦立直播栽培」の導入により、麦・大豆の高品質・高単収を目指す実証を行う。また、麦・大豆の生育期の病害虫・除草防除、大豆の中耕・培土を行う栽培管理用ビークル等の機械及び技術を導入し、高品質及び高単収な麦・大豆の生産を目指す。		1,294	1,294	平成21年4月17日	推進事業
9	生産性限界打破事業モデル実践事業	秋田県 大仙市	農事組合法人 中仙さくらファーム	水稻、大豆 栽培マニュアル作成	水稻湛水直播技術、大豆の300A技術等の技術をトラクター、汎用コンバイン、多目的田植機（移植・直播）、ロータリーカルチベーター等の農業機械をリースで導入して実証し、地域への導入を早急に行い、米の生産費の更なる縮減、大豆の高単収、高品質生産を目指す。		9,570	8,999	平成21年4月17日	推進事業
10	生産性限界打破事業モデル実践事業	秋田県 大潟村	大潟村カントリーエレベーター公社	水稻、大豆 協議会の体制整備、技術研修・検討会等	主食用米に湛水直播栽培を導入し、移植栽培と組み合わせることにより、播種期や収穫期の作業ピークを分散させ、水田の有効活用、農業機械の稼働率の向上による生産性向上に取り組む。また、米粉用米については、多収性品種の導入により、生産性向上を図るとともに、肥料分の多い大豆跡の水田に多収性品種を作付けすることで、通常の水稲栽培よりも肥料の低投入で多収を確保することにより、さらなるコスト削減に取り組む。 また、大豆においては、もみがら暗渠排水を基本に大豆300A技術等の導入実証を行い、地域への普及を図るとともに、大豆調整施設を整備し、大豆の生産量増加への対応とさらなる高品質化を図る。		105	100	平成21年11月17日	推進事業
11	生産性限界打破事業モデル実践事業	秋田県 大潟村	大潟村カントリーエレベーター公社	水稻、大豆 大豆調製施設（風力選別、比重選別、色彩選別機等）	主食用米に湛水直播栽培を導入し、移植栽培と組み合わせることにより、播種期や収穫期の作業ピークを分散させ、水田の有効活用、農業機械の稼働率の向上による生産性向上に取り組む。また、米粉用米については、多収性品種の導入により、生産性向上を図るとともに、肥料分の多い大豆跡の水田に多収性品種を作付けることで、通常の水稲栽培よりも肥料の低投入で多収を確保することにより、さらなるコスト削減に取り組む。 また、大豆においては、もみがら暗渠排水を基本に大豆300A技術等の導入実証を行い、地域への普及を図るとともに、大豆調整施設を整備し、大豆の生産量増加への対応とさらなる高品質化を図る。	1.05	110,700	52,713	平成21年11月17日	整備事業
12	生産性限界打破事業モデル実践事業	茨城県 筑西市	田谷川協業組合	小麦、大豆 実証の実施、協議会の開催等	小麦については、安定多収性で品質の良い新品種「きぬの波」を導入し、多収による生産費の低減を図り、大豆については、大豆300A技術の導入に係る不耕起狭畦密植栽培及び耕うん同時畦立播種の導入による労働時間の短縮や収量性の向上といった新たな技術導入・拡大を通じたコスト縮減を図る。		3,100	3,100	平成21年5月1日	推進事業

	事業種類	都道府県名 市町村名	事業実施主体名	対象作物・施設名	取組概要	投資効率 (注)	予定事業費 (千円)		交付決定年月日	備考
								うち国費 (千円)		
13	生産性限界打破事業モデル実践事業	岐阜県 養老郡養老町	有限会社クリーン ファーム日吉	水稻、大豆 実証ほ場設置、摘心 機の改良、検討会等 の開催	水稻において、湛水直播栽培を導入し、育苗及び田植え作業を省略するとともに、多収性品種「モミロマン」の導入も組み合わせることで、単位量当たりのコスト削減を図る。また、労働時間の削減と併せ、直播栽培と移植栽培の組合せによる作期分散により、規模拡大を図る。多収性品種の乾燥については、新たに遠赤外線乾燥機を導入し、生産量の拡大に対応可能な体制を構築するとともに、乾燥時の労働負担や燃料コストの低減を図る。 大豆においては、倒伏による収量低下を回避、軽減する技術として、摘心技術を導入し、機械の改良を行いながら、技術の確立を目指す。		1,060	1,007	平成21年7月14日	推進事業
14	生産性限界打破事業モデル実践事業	岐阜県 養老郡養老町	有限会社クリーン ファーム日吉	水稻、大豆 水稻用湛水直播機、 遠赤外線乾乾燥機	水稻において、湛水直播栽培を導入し、育苗及び田植え作業を省略するとともに、多収性品種「モミロマン」の導入も組み合わせることで、単位量当たりのコスト削減を図る。また、労働時間の削減と併せ、直播栽培と移植栽培の組合せによる作期分散により、規模拡大を図る。多収性品種の乾燥については、新たに遠赤外線乾燥機を導入し、生産量の拡大に対応可能な体制を構築するとともに、乾燥時の労働負担や燃料コストの低減を図る。 大豆においては、倒伏による収量低下を回避、軽減する技術として、摘心技術を導入し、機械の改良を行いながら、技術の確立を目指す。	1.35	6,386	3,041	平成21年8月7日	整備事業
15	生産性限界打破事業モデル実践事業	愛知県 西尾市 幡豆郡一色町	西尾幡豆高能率麦大 豆研究会	小麦・大豆 農業機械のリース 検討会等の開催	麦については、収穫期が梅雨と重なり、品質や収量に大きな影響を受けやすいことから、これまでの主力品種である農林61号と比べ、早生で収量性の高い新品種「イワイノダイテ」を導入、拡大する。 大豆においては、播種期が梅雨と重なることや大規模化による作業の集中から播種適期を逃しやすいため、施肥播種同時作業機を導入し、雨の合間における播種作業の省力化を図り、適期播種を行うとともに、併せて播き遅れに対応した狭畦無中耕無培土栽培の実証を行う。 小麦・大豆の播種、防除の効率化を図るため、肥播種同時作業機用トラクター及び無人ヘリコプターをリースにて導入し、低コスト作業体系の構築と収量・品質の向上を目指す。		5,716	5,443	平成21年5月7日	推進事業
16	生産性限界打破事業モデル実践事業	兵庫県 豊岡市	中谷農事組合法人	小麦、大豆 実証の実施、新技術 の普及、協議会の開 催等	麦は、暗きょ排水のメンテナンスや従来から実施している補助暗きょ及び明きょの設置とともに、湿害対策に高い効果をあげている「耕うん同時畝立て播種栽培技術」を導入し、収量の安定化を図る。 また、新たに、輪作体系に大豆を加えることによって収益性の向上を図るため、大豆においても「耕うん同時畝立て播種栽培技術」を導入する。あわせて、当組合が営農する水田がコウノトリの舞い降りる田んぼとして認定を受けていることもあり、低肥料・低農薬での栽培が可能な大豆の契約栽培に取組む。 耕うん同時畦立て播種機栽培技術の実証試験を行い、コスト縮減効果の分析を進めるとともに、成績検討会等を通じて、地域への営農体系・技術の普及・定着を諮る。		2,145	2,042	平成21年7月15日	推進事業
17	生産性限界打破事業モデル実践事業	広島県 世羅町	尾道市農業協同組合	水稻、大麦、大豆 実証ほ場設置、協議 会の開催等	水稻については、直播栽培技術の実施により、播種作業の大幅な省力化を図るとともに、鉄コーティング種子の活用により、浮き苗・鳥害等の発生を抑え、安定的な生産体制を確立する。 麦については、品質及び収量性を高めるため、新品種「すずかぜ」及び裸麦「マンネンボン」を導入するとともに、不耕起播種技術の導入による播種作業の省力化を図る。 大豆については、大豆300A技術である不耕起密植栽培の導入により、播種時期の湿害を軽減するとともに、播種作業の省力化を図る。 さらに、これら技術の導入に当たって栽培暦を作成し、地域への普及を行う。		800	800	平成21年5月21日	推進事業

	事業種類	都道府県名 市町村名	事業実施主体名	対象作物・施設名	取組概要	投資効率 (注)	予定事業費 (千円)		交付決定年月日	備考
								うち国費 (千円)		
18	生産性限界打破事業モデル実践事業	沖縄県糸満市	南部地区さとうきび生産振興対策協議会	さとうきび実証ほ場設置、協議会の開催等	さとうきびについて、台風や干ばつの被害を受けにくく、出芽や萌芽率を高め収量を向上させ、かつ降雨の多い時期を避けて収穫することにより、ハーベスターの収穫率を向上させる等の長所がある夏植型秋収穫栽培体系を確立し、従来の2年1作の栽培体系から、5年4作の栽培体系への転換を図る。このため、生長が休止する冬でなければ糖度が上昇しにくい従来の品種に替えて、生長期の秋でも糖度が上昇しやすい新品种の導入を図る。 生産者、製糖工場、研究機関等の連携の下、早期高糖品種の栽培実証を開始することとし、次年度以降の実証面積拡大に向けた種苗増殖を行い、併せてモデルほを設置し生育・糖度等のデータを収集する。		22,171	22,171	平成21年6月30日	推進事業
19	次世代園芸ロボット技術導入検証事業	東京都港区	(社)日本ロボット工業会	園芸作物	労働時間が多い園芸分野において、生産コスト、労働時間又は労働負荷の低減に資するため、ロボット及び農業分野の有識者からなる推進委員会を設置し、生産現場でのロボット技術の導入・実証を行い、実用化への加速化を図る。 【園芸用ロボット】 大学・民間等で研究開発が行われている園芸用ロボット技術について、公募形式により実証技術を選定し、その実証結果を検証、評価し、実用化の推進を図る。 【非農業用ロボット】 現在、既に実用化されている非農業分野のロボット技術について、農業分野への利用可能性の高い技術を選定し、農業分野での利用を可能とする使用の決定、ほ場実証を可能とする改良を行う。		54,177	54,177	平成21年6月10日	推進事業

注：投資効率については、「強い農業づくり交付金及び農業・食品産業競争力強化支援事業における費用対効果分析の実施について」(平成17年4月1日付け16生産第8452号総合食料局長・生産局長・経営局長通知)にて算出している。